

わすれもの

作者：sinshiki

概要：『失恋』『夏の始まり』『アイスクリーム』がテーマです。何かコメントいただけると嬉しい限りです。本来縦書きなのを横にしているので少し嫌です。

タイトル

わすれもの

渡瀬 真識

六月二十日

六月二十日

季節が狂い梅雨なんてぶっ飛ばして夏がやってくる今では、六月二十日は既に夏の入り口だ

。俺たちが最も忙しい季節の入り口だ。っと言っても俺は学生でアイスクリーム屋でバイトをしているだけだけど。「今年も忙しくなるんだろうな——」と憂鬱になりつつも、それなりに期待していることもある。

俺が働いているここは、比較的女子校に近い。元女子校か。『元』とつくのには意味がある。俺の受験の時は女子校だったが、その次の年に時代の流れ少子化には逆らえず共学になったのだ。俺の中では受験の時の女子校のイメージが強すぎて、いつも女子校と言ってしまう。

だがまあ、それでも男女の比は明らかに女の方が多くなる。

何を期待しているかだなんて、皆まで言わなくても判るだろう、そういう事だ。

でもまあ、そんなプラス要素があっても、いや、そのプラス要素ゆえに、『女＝甘い物が好き』と言うのは安直だが、この学校の彼女たちも例外なく成り立ってしまっているのだから、冬でもそれなりに人が来るここは、夏では周りを気にする暇もないぐらいの忙しさになってしまうのだ。

そう、いつの間にかメニュー立てに忘れられたノートに気付かないぐらいに。

「「ありがとうございました」」

最後の客が店を出て行き、やっとクローズの作業に入れる。

「今日は多かったよな」

「熱かったからですよ。」

『真夏並みの暑さになるでしょう』だとか朝のニュースでは言っていましたから」

「最近夏もどんどん熱くなってきてるんだけどいつぐらいの夏と比較してるんだろうな？」

そんな他愛のない話しを後輩としながら俺はレジ周りを後輩はテーブルを拭き始めた。

全く暑くなる一方だ。ここは空調が効いてるから気にならないが、家に帰れば不快度指数との戦いだ。課題なんてやる気も起きなくなってしまうしな。けどまあ、そのおかげでこの店が忙しくなる期間が増えてつぶれる心配をしなくて済むから悪いことばかりではないけどな。

「先輩はここで働くのは長いのでしたっけ？」

そうだな、俺もここで働き出して結構経ったな。

「ああ、そうだけど？」

「自分、秋口に入ってきたのでまだ夏を知らないのだからやっぱり忙しいのかなって」

「そりゃな、今日感じが毎日一日中続くって感じだな」

そう言うと、黙ってまた仕事に戻る。俺も遊んでばかりいるわけにいかないからレジの点検を始める。

30031円、よし、大丈夫だ

安心して周りを見渡すと、メニュー立てに見慣れる物が挟まっていることに気付いた。

花柄のノートだ。大きさは、大学ノートとさほど変わらないが、明らかに表紙がそうではない。厚さも少し厚い。80頁ほどあるのではないかと言うぐらいだ。

「なあ、このノート何のノートかわかるか？」

掲げて見せてみるが、どうやら知らないようだ。

店のものでないとなると、忘れ物だろう。

裏も表も見るが、名前らしきものは書いていない。普段なら、こんな落とし物何も気にせず落とし物箱に放り込むのだが、何の気まぐれか、ただの暇つぶしか、それとも俺がこのノートの持ち主のことが気になるのか、俺は落とし主を探してみようかと思った。

何もヒントがない状態では、とても探しようがないと思えば落とし主には悪いが、少し中身を

見させてもらうことにした。

4/6 今日から新学期が始まりました。今年から日記をつけていこうと思います。
4/7 新しいクラスになり、初めてみる人がいます、今年一年どうなるか楽しみです。

・
・
・

・
・
・

4/12 今日は四月にしては暑かったので学校の近くにあるSommeranfangというアイスクリームの店に行きました。いろいろなアイスがあって楽しいところでした。今度から部活の帰りに寄りたいな～なんて思いました。

うん、そうか、短い内容でだけど、かわいい丸文字で書かれた日記だ。ここまで読んだ感じここにはそれなりに通っている子なのだろう。

もしかしたら、明日もここに来るのかもしれないな。

部活をやっているような記述があったから下校はきっと十八時などの遅い時間だろう。その時間なら、俺はバイトに入っているからちょうどいい。

などと思った俺は、明日のバイトのときに、このノートの持ち主を探してみることにした。

探さなくても、忘れたことに気づいた彼女が申し出るかもしれないしな。

六月二十一日

六月二十一日

ノートを発見した俺は、そのノートを落とし物入れに入れずに自分の鞆に入れて持ち帰った。家に帰った後は忘れていたが、学校に来て自分のノートでないノートが入っていることで思い出した。

黒板には、『重分析に用いられる——』などを書いてあるが、めんどうだから写す程度で忘れ物のノートを読むことに集中した。

持ち主を特定できるようなヒントはないかを探すことにした。

けいおん部

みさき先輩

抹茶アイス

Sommeranfang

新しく買った携帯

アイス

アイス

アイス

単語を何個か見つけた俺は、それだけではイマイチ内容が把握できないのでそれぞれの周りを読むことにした。

この前行ったお店が良かったので、今日はけいおん部のみんなと来ました。みんなにも好評みたいで、いろんなアイスを頼んでいました。みんなと来るとやっぱり楽しいです。

今度は、みさき先輩を誘ってみようと思います!!!

所属部活は軽音部か。文章の感じからして、もっと温和しい部活、園芸やら吹奏楽やら茶道かと思ったんだけど。

『みさき先輩』か今まで見てきた中で初めての名前登場だな。無事誘えていたのなら、今はその先輩と来てる可能性もある。気にしないといけない。

ある程度、情報を整理して、次の単語に移る。

色々なアイスを食べましたがやはり抹茶アイスが一番美味しいと思いました。甘いだけじゃなくて、ちょっぴり苦いのがいいです。友達はその苦いのが嫌いだって言いますが、その苦……

抹茶アイスが好きなのか。何か変わった味が好きな子なんだな。まあ、軽音楽部と言うことよりは、より自然なイメージだな。

売っている感じで考えて…、そんなに多くはないからこれは結構なヒントになりうるな。

でもまあ、毎日同じ味を食べ続けているわけでもないだろうし、日付は…

『4/20』

このときから好みが変わっていても不思議じゃないな。

『さて、次を……』 そう思ったときに肩を叩かれた。

何だよ！と言うより早くボソッと「まえ。」と囁かれたので前をみると、先生が不機嫌そうにこっちを見ていた。当然授業が止まっている。ここから推測するに俺が他事してるのに気付いて、文句が言いたいようだ。熱心なことで。

まあ、そんな理由で中断することにした。まあ、教科書開いて、勉強しているふりをして、考えをまとめよう。

・ 二年次以降で最高学年でない。

これは、四月頭から部活の友達～…とか出てる事から入ったばかりではないだろうと推測。まあ、ダブっていたら別だが。

それと、『みさき先輩』と言う先輩が存在するから最高でもなさそうだ。みさき先輩とは仲が良さそうだしな。

・ 活発な子である可能性が高い。

少なくとも、人混みを嫌うような子じゃないって事は確かだね。そのグループでは中心的人物なのかもしれない。

・ かなりの頻度でうちに通ってる。

一週間とそこらで『色々なアイス』って言うほどだもんな友達と来て貰ってるというのを考えても、うちは一応アイスだけノ店だからなそれなりに種類はある。毎日通ってると思ってても良いのだろう。

・ 抹茶アイスが好き

特筆することもないだろう。

こんなものかな。

今日のバイトで注意するのは、『抹茶アイス』『団体』『楽器』『みさき先輩』ぐらいかな。

その日のバイトへは、授業が終わると急ぎ足で向かった。

今までこんなにバイトに早く行きたいと思ったことは一度もなかった。ノートのせいだろう。

俺が店に着いたときには既に学生達で賑わっていた。

予想している時間よりは早いけど、俺は客を観察する。

「これください」「チョコとバニラを」の注文を捌いていく。特に変わった注文でもない限り気にはならない。ただまあ、『抹茶』っという注文は気にかけるようにしている。ただそれだけのレジが進んでいく。

「抹茶とチョコチップをください」

気にしている単語が聞こえ、俺は無意識から帰ってくる。その注文の主を見ると...男か。

まあ、この店に男が来ることは別に珍しくはない。

「三百円です」「七百円のお返しになります」

千円を受け取り、おつりを返す。その後二つのアイスクリームを渡す。二つ？ってことはもう一人いるんだよな？そう思い、まわりを探してみる。

が、特にそれらしき影もない。そのまま店を出て行き死角に入るまで誰と会うでもなく話すでもなく消えていってしまった。

「え～なににするー？これとかよくない？」

「でもこっちのレモンもおいしいとかきくよお？」

ああ、めんどくさい客だ。レジについてもまだ決めてなくてすぐには注文しない、そのくせ後ろを先にやろうとすると文句ばかりわめくタイプだ。前に、こういうタイプのときは飛ばしてやってそのまま三十分ほどグダグダ文句言われたな...

その後、閉店までレジに居続けたが、それらしい客は居なかった。抹茶を頼んだ客は意外と多かった。普段は気にしていないから少ないと思い込んでいたってわけか...楽器を持っている、そんな集団は居なかった。よく考えてみれば、自分の楽器だとしても、いつも持って登校しているわけじゃないもんな。

学校に近いから、結構みんな集団で来ていた。というか、どこが切れ目かわからなかったな。運よく軽音部の名前を聞くということもなかった。

持っていたヒントを待ち構えて探すのでは見つけることは難しいかもしれないな。

六月二十二日

六月二十二日

次の日俺は、再び作戦を練りなおすことにした。『抹茶アイス』までは考えたから、昨日は邪魔が入って中断したからそれ以降を考えていくことにした。

今日は急に雨が降って来てしまい、傘を持ってこなかったのが、びしょ濡れになってしまいました。途中でSommeranfangによって雨宿りをしました。なかなか止まず仕方なく諦めて頑張っただけで帰りました。

この日記帳が濡れてないか気が気ではありませんでした。こうやって書くことができると今は凄く安心しています。

ん〜.....Sommeranfangと言う単語で気になったが、突然の雨に雨宿りか。

とくに大したことはないな。何かわかることは〜、この日記帳が大事なものと、一人で帰る事があるということかな。まあ、一人で帰る日もそりゃあるだろう。

にしても、そんな大事なノートを無くしても、昨日は音沙汰なしか。うん〜...一体どっちなんだろう。」

まあ、答えが出ないことを悩むのをやめて、次を考えることにした。

今日、みさき先輩とお買い物に行きました。

そしてなんと、先輩とおそろいのケータイを買いました。

新しく買った携帯はこれまでのより小さくて可愛いデザインです。私がピンクで、先輩は緑です。ピンクは少し恥ずかしかったけど、先輩が選んでくれた色だから嬉しかったです。

これで先輩と沢山お話ができるようになりますとても楽しみです♪

これからよろしくね♪と言うことでケータイさんにお名前をつけることにしました。

色々な名前の候補があったんですけど、「しき」に決定しました♪

これからよろしくね、しきちゃん♪

よほど嬉しかったんだな。なんか、そんな感じがひしひしと感じられる日記だ。『みさき先輩』とはよほど親密なんだろうな。

新しく買った携帯に名前をつけるのもねえ〜。なんか、やっておいて、後で後悔するタイプの事柄だよな。まあ、俺もやったこと無いわけでもないからな...

今はそんなことしてないけどな。若さ故の過ちと言うものだよ。

ピンクのケータイか...、せめて機種とか書いてくれていたらヒントにもなりうるのにな。ただ色がわかるだけってのじゃねえ

『小さくて可愛い』って書いてはあるけど、女の子の可愛いだなんて男の俺にはよく解らないからな。きも可愛いとか意味わからないジャンルがあるくらいだし。

参考になるのかならないのかわからない文はいいや。

まあ、一応ピンクと緑のおそろいのケータイを持っている人物を見つけたら、気にしようって思っても多分そんな劇的瞬間を目撃するよりも、昨日見つけたキーワードの方が楽だろうな。

もっとこう、アクティブにこっちから攻められる情報はないのだろうか？次の文に移る。

最近アイスばかり食べているので少し調べてみることにしました。授業の合間に色々調べていたら、『ごぼうアイス』と言う物があるそうです。どんな味かわかりませんが、凄く気になります。いつも行くアイスクリーム屋さんにもそんな変わったメニューが増えるといいなって思いました。

後はカボチャアイスとか野菜のアイスも面白そうです。

今度、店員さんに聞いてみようかな？

聞かれたこと無いし聞かれてるのをみたこと無いぞ？

いや、むしろチャンスか。聞かれてないと言うことはこれから聞かれるかもしれないって事だろうからな。

ごぼうアイスか〜...

変なアイスだな。

これから暑くなってくる季節だしな、店長に新商品の提案という形でアンケートをするってのが良いかもしれないな。ごぼうアイスってのも特徴的だしな。

よし、今日はとりあえず店長に相談しよう。まあ、多分夏に向けて〜とか言えば、許可してくれるだろう。できたらケータイも見たいな。

.....

二次元コードを読み取らせて食べたいアイスクリームのアンケートを実施すれば良いな。

っと言うわけで、とりあえずバーコードを作成っとな。

後は店長を説得するのが今日の課題だな。

バイト先についた俺は昨日とは逆に仕事をすぐには始めずに店長に話しかけた。

「店長、今少し時間よろしいですか？」

「ん？いいけどどうした？」

「えっと、もうそろそろ夏で、客が増えてくると思いますし、新商品を増やしてみてもどうかなと思ったので。」

「何か増やしたいのがあるのか？」

「いえ、自分は無いですけど、何か欲しいと言う人も居るかもしれないと思ったのでアンケートを実施してみてもどうかと思って。」

「そうだな。だけど、僕は何もしないよ？それでも良いならやってくれるとありがたいね。」

よし、これで許可が出たから頑張ろう。さっきのバーコードとあわせて。

新作アイス募集！

あなたが欲しいと思うアイスクリームをSommeranfangで食べられるようにしませんか？

応募方法は簡単右下にあるアドレスに食べたいアイスを書くだけ。

簡単なので是非とも応募してください♪

こんな感じで良いか、何か味気ない気もするけど、そんなに時間もないしな。

近くのコンビニに行きコピーを取りレジの目立つところに張り客に勧めるように一緒にバイトに入ってる人にも促した。

結構みんな乗り気で、勧めるとすぐにケータイを取り出してバーコードを読み取った。俺がレジを通した客の中には、ピンクと緑の組み合わせの客は居なかったが、家に帰ってメールを確認すれば、ごぼうアイスやカボチャアイス、野菜アイスなどと書かれたメールがあるかもしれない。

そうすれば、あの日記の持ち主のアドレスGETだぜ！って事になるからな。

バイトが終わりわくわくしながらコンピュータをつけメールを確認した俺は驚いた。

あれだけバーコードを読み込んでいる客が居ながら、メールが来た件数は...

10件

少なっ！

その内容も、ごぼうやカボチャなどではなくいわゆるゲテモノ系の物ばかりだった。

焼き肉アイスは無いわ。

妙案だと思ったが、失敗だったか。誰もボランティアだけではアドレスを晒すような真似はしないって事なのかな...

まあ、落ち込んでいても仕方ないな。今度は直接その場で記入して貰おう。選択肢を4つのうち1つ選べみたいにな。

選択肢のアイスは、

ワサビアイス・ナタデココアイス・ごぼうアイス・焼き肉アイス

ぐらいで良いかな。ネタに走るような人間にごぼうアイスを選ばれちゃアンケートをの本当の意味を達成できないし、普通の人ならワサビもしくはナタデココを選択するだろ？

あとは、回答率の低さを改善しないとな。

とりあえず、明日学校のコンピュータでちょっと多めに印刷して持って行くことにしよう。

六月二十三日

六月二十三日

次の日学校に行きアンケートを完成させる。

前回みたいにただのアンケートじゃまた回答者がほとんど居ないという悪夢再びになりそうだから最後に一言足した。勝手に足した。

「アンケート回答者十円引き」

これぐらいなら良いだろう。

新作アイスはどれ？

前回のアンケートで集められたアイスクリームの中から1つだけ取り入れることにしました。

どのアイスクリームがよいでしょうか？

- ワサビアイス ナタデココアイス
ごぼうアイス 焼き肉アイス

回答をレジに出してくれた人は10円引きです。

まあ、何言われるかわからないけど、これぐらいの付加価値をつければ多分喜んで答えてくれるだろう。

こんな感じかな。一枚の紙に3つで五十枚印刷しておこう。いざダメだったら一文を切れればいいし。

そんなことを考えながら学校のプリンターで大量に印刷する。生徒個々に印刷枚数が割り当てられていて、俺は余り使っていないので問題ない...はず。

いざバイトに行き店長に十円引きの話をしたら

「良いよ、それぐらい。」

と言いつつ。あっさり何も言われず許可されるとは思っていなかった俺は逆に驚いた。けどまあいいや苦労しないことに越したことはないしね。

「もし良かったらこのアンケートに応えてもらえますか？

そしたら、十円割引なので。」

そう言って客に勧める。少ないだろうと思ったごぼうが圧倒的に多い。皆今まで知らなかった物の物珍しさに食いついているようだ。

これじゃ何のために俺がこのアンケートをやったかわからなくなりそうだ。っというか、既に正しい目的のために最大限力を発揮してしまっている。

アンケート作戦も失敗か。

いや、アンケート自体はかなり成功して結果的には、圧倒的票数でごぼうアイスが追加されることになったから店長的には大喜びで褒められたし奢って貰ったから良いけどっ！

本来の目的ノートの持ち主を絞り込むって事ができなかったじゃんか。この前読んだ以上に読み進めなくてはいけないじゃないか。

なんか、人の日記帳を読むのって少し抵抗があるんだけどな...でもまあ、ここまできて探さないってのは何か嫌だし是非とも持ち主と知り合って.....まあいい、読むことにしよう。

.....

.....

.....

今日はみさき先輩の誕生日です。誕生日プレゼントを買いたかったのですが、男の人がどんな物が欲しいかなんてわからないので買うことができませんでした。

もっとみさき先輩がどんな物が好きかとかを勉強しないとイケないなあ〜っと思いました。

ん？

何か変か単語があったぞ？

『男』ってみさき先輩って女の先輩じゃないのか。名前からして女の人だろうと思って特に気にしなかったけど、一番初めの、

今度は、みさき先輩を誘ってみようと思います！！

は、彼氏を誘ってみようということか...

買い物に行ったときのもあれはあれで要するに『デート』だったって事ですか。そりゃテンション上がるよな...

たしかに所々出てくる『みさき先輩』が女性であるということは全く書いてないし、むしろ異性で恋人である方が自然な文章の時もある。

いやまあ、勝手に勘違いした俺も悪いが...

彼氏持ちなら彼氏持ちらしくそんな日記を書けよ。とか思いながら微かに抱いていた俺の希望は残念なことに『みさき先輩』と言う存在に砕かれたな。

結局俺は、ノートを持ち主を探すのをやめた。

そのノートの持ち主を探すことの意味を失ったというのが一番の原因だ。

そのノートがどうなたかって？

そんなこと聞かなくても大体想像できるだろ？

あとがき

とりあえず読了感謝です。

今回はとりあえずページについて使ってみました。

文章は去年書いた物です。

本来文章の間にある日記の部分は、テキストボックスで無理矢理横書きにして挿入していた物です。

故に、フォントがぐちゃぐちゃになったりと……

やっぱり文章は縦書きで書きたいな。縦書き機能が追加されれば、普段からこれ使って書いていくのもありかなって思ったり。

縦書き機能追加して～

ではでは失礼します。